

毎号、研究員をクローズアップして、業務内容や仕事に対する思いをご紹介します。



Vol.
07

電子・機械グループ
副主任研究員

仲村 将司

学生時代は情報技術を専攻し、ライントレースロボットの開発研究を行う。趣味はデカ盛りグルメ巡りとランニング。



「新訂 新C言語入門 シニア編」
林晴比古 / SBクリエイティブ ISBN 4-7973-2562-3
組込みソフト開発のバイブル本です。
※都産技研本部図書館でも閲覧いただけます。

1社でも多くの企業から頼っていただくために、 質の高い技術習得と研究開発に邁進したい

専門分野に捉われない 幅広い情報収集や技術が必要

幅広い技術的なサポートで中小企業の発展を支援するという都産技研に魅力を感じ、転職しました。自分には敷居が高いのではないかと躊躇する気持ちもありましたが、今となっては思い切って採用募集に応募してよかったと思っています。

入所後3年間は、情報技術グループにおいて無線センサネットワークに関する研究を行っていました。その後、電子・機械グループに異動し、引き続き無線センサネットワークの研究開発や講習会を行っています。中でも、組込みマイコンのソフトウェア開発を専門としています。特に、IT分野は、日進月歩で新しい技術が開発されるため、常に技術習得や情報収集が欠かせません。また、情報収集については、IT分野に限らず、業務内容によっては、自分の専門外の知識が必要となる場合もあります。

農業利用を想定した無線センサネットワーク開発に携わった際には、農業についての基礎的な知識の必要性を感じ

じ、(公財)東京都農林水産振興財団 東京都農林総合研究センターを訪問しました。それがきっかけで、現在は共同研究に発展しています。

企業成長を重視した 対応を心がける

研究開発はもちろん、依頼試験や機器利用でお客さまと接するのも私の大切な仕事です。一番やりがいを感じるのは、お客さまの抱えていた問題が解決し、「ありがとうございます」というお礼の言葉をいただくことができた瞬間です。私の仕事が中小企業の方々のお役に立てていることが実感でき、やりがいを感じます。

私たち都産技研は、中小企業の成長を重視した対応が求められていると思います。このような支援を民間企業が行うことは難しく、都産技研は社会的に価値の高いものと自負しています。

研究開発についても、中小企業での事業化を見据えて行う必要があります。それを実現するために、これからも日々、幅広い知識、高度な技術習得に邁進していきます。

部品のインピーダンスを測定する装置です



元気な3人の子どもたちに囲まれた毎日

